

科目コード	S26210	科目名	言語発達障害				
履修区分	必修	開講期	1年前期	授業回数	8回	単位数	1単位
担当者	河村 千夏						
授業の概要	この講義では、言語発達障害の中でも知的障害に伴う言語発達障害について学ぶ。あわせて、言語発達支援・指導の基礎ともなる、発達段階に応じた支援について学ぶ。						
DPとの関連	人間を広い領域から捉え、人を愛する心と専門技術を統合できる能力を身につける						
	言語聴覚障害学について深い専門的知識を修得し、それを臨床において適切に応用することができる能力を身につける						
	職務遂行に必要な社会性、倫理観、専門職業人としての自覚を身に付け、多様な患者、家族、医療・福祉関係者等と円滑なコミュニケーションを取ることができる能力を身につける						
	複雑で多様な障害について常に科学的に探究する姿勢をもち、積極的に自己研鑽し続ける能力を身につける DP：ディプロマ・ポリシー（修了認定の方針）= 修了までに身に付けるべき資質・能力						
到達目標	知的障害を伴う言語発達障害を理解することで、評価の流れ、内容、支援や指導といった臨床技術の基礎を習得することができる。						
履修上の注意事項	配布資料もありますが、毎回必ずテキストを持参してください。 遅刻は2回で欠席1回扱い、開始後20分以降は欠席扱いですが、やむを得ず遅れた場合も参加してください。 レポートや提出課題はC-learningより指示を出します。提出もC-learningでお願いします。 提出物は期限、課題量の指定を守りましょう。提出が遅延する場合には事前に連絡を頂いていたら対応いたします。						
授業計画	回数	講義内容【担当教員】				事前・事後学修	
	1	知的能力障害とは				【事前】テキストPまで読み、キーワードを抽出する（60分） 小児科学（知的障害を伴う疾患）の復習をする（60分） 【事後】感想レポートを作成する（60分）	
	2	知的能力障害に伴う言語・コミュニケーションの特徴				【事前】テキストPまで読み、キーワードを抽出する（60分）乳幼児期の言語発達の復習をする（60分）【事後】感想レポートを作成する（60分）	
	3	知的能力障害児の言語・コミュニケーションの評価				【事前】テキストPを読み、キーワードを抽出する（60分）乳幼児期の言語発達の復習をする（60分）【事後】感想レポートを作成する（60分）	
	4	発達段階に応じた支援				【事前】テキストPまで読み、キーワードを抽出する（120分） 【事後】感想レポートを作成する（60分）	
	5	発達段階に応じた支援				【事前】テキストPまで読み、キーワードを抽出する（120分） 【事後】感想レポートを作成する（60分）	
	6	環境調整				【事前】テキストPまで読み、キーワードを抽出する（60分） 家族の手記を読む（60分）【事後】感想レポートを作成する（60分）	
	7	知的能力障害児への支援				【事前】テキストPまで読み、キーワードを抽出する（120分） 【事後】感想レポートを作成する（60分）	
	8	知的能力障害児への支援				【事前】ここまでの講義に出てきた用語を整理・確認する（120分） 【事後】感想レポートを作成する（60分）	
成績評価方法	期末試験100% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。						
教科書	書名・著者（出版社）					ISBNコード	
	言語発達障害学 第4版(標準言語聴覚障害学) (医学書院)					9784260062855	
	言語聴覚士テキスト第4版【大森孝一ほか(編)】(医歯薬出版)					978-4263266908	
参考書	講義ごとに適宜参考資料を紹介します。						
教員からのメッセージ	講義前に、教科書の該当ページを読んでおくこと。関連領域の復習を踏まえて学修してください。 専門用語等わからないことがあれば、各自調べて知識を深めておいて下さい。 講義終了後は、講義内容から得た感想をまとめて、C-learningに提出してもらいます。 知的障害についてイメージがわからないなどがあれば、知的障害に関する一般書を図書室で借りるなどしてみてください。						
教員との連絡方法	講義後に質問があれば承ります。C-learningを使用しての連絡質問も可能です。						
実務経験のある教員	言語聴覚士として小児療育センター及び特別支援学校にて知的能力障害児の臨床経験のあり、現在も言語聴覚研究所付属相談室にて小児の言語相談・指導に携わる教員が担当する。						